



マタタビ(雌花)

## 「やまびこ通信」

第19号 令和6年6月発行



マタタビ(雄花)

### ■ 岸本知事、林業試験場を視察

新年度早々、4月8日(月)午前の1時間程度でしたが、岸本知事が公務の合間を縫って当試験場を視察しました。

当日は、私から林業試験場の沿革を説明するにあたり、まずは玄関正面にある昭和52年4月に開催された第28回全国植樹祭のお手まき行事の際、お手まきになったスギとヒノキを案内しました。

場長室において各部長から研究概要を説明し、知事からは熱心な質問がありました。

経営環境部においては、無花粉スギの今後の動向やクマノザクラと他のサクラとの交雑の問題について、木材利用部では以前実施したシイ材のフローリング利用に関する職員住宅での実績について、特用林産部では、本県のサカキは日本一の生産量であることに驚かれたり、紀州備長炭に使用されるウバメガシ原木の現状等について、意見交換を行いました。

その後場内視察で各部の研究内容を担当研究員から各現場で対応しました。

木材加工研究棟では、シイフローリングやスギ心去り・ヒノキ心持ち平角のサンプルや木材強度試験機について、ミストハウスでは、クマノザクラの特徴や無花粉スギの育苗方法について、イタドリ栽培圃場では、「東牟婁3」を品種選抜した経緯について、木材乾燥ピニールハウスでは、スギ平角の乾燥状況について説明しました。



短い時間ではありましたが、知事には当試験場での取り組みについて興味深く質問をいただき、若手研究員にとっても良い経験になったと思います。

翌日には県公式 Facebook に「木の国」和歌山県にとって重要な研究機関です。とのコメントが投稿されました。

(場長 東山 貢)

### ■ 令和6年度の新たな研究課題

#### ◆ 紀州材(無垢材)の割れと強度性能に関する調査(R6~7)

紀州材は建築用材として無垢材で使用される機会が多いですが、乾燥に伴う割れや背割りなどが強度を低下させるのではないかと、ユーザー側から懸念されることがあります。

このため、紀州材における無垢材の乾燥に伴う割れや背割りと強度性能の関係を明らかにするために、無垢材の乾燥に伴う割れの定量評価及び強度試験を行うとともに、製材所や工務店などを対象に割れについてのアンケート調査を行います。(粟田)



#### ◆ 経営環境部

新免 哲則 : 部長

法眼 利幸 : 獣害・病虫害対策

山下 由美子 : 育林・林業経営

山下 桃子 : 育種・病虫害対策・林業機械

松久保 康輔 : 育種・病虫害対策・森林環境

鈴木 大輔 : 研究業務の補助

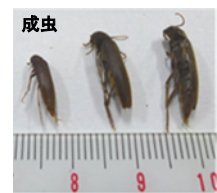
#### < 中辺路試験地 >

西原 康人 : 育種・種苗生産

大谷 美穂 : 種苗生産

#### 【トピックス】

近年、通年での伐採が増加し、夏季を中心に伐採現場などで穿孔性昆虫による被害が目立ってきています。皮付きヒノキ材を林地に放置して穿孔種と時期を調査したところ、これまで害虫としてあまり認知されていなかったキイロホソナガクチキムシが、大きな被害を及ぼすことが分かりました。黒っぽい茶色の甲虫で体長は10~20mm程度です。



今回標高約400mの人工林で調査したところ、8~10月に伐採して1ヶ月間放置したヒノキ材を200日経過後に割材すると無数の穴(孔道)と幼虫が見られました。文献では6~10月に成虫が発生するとされており、対策として、その時期は良質材の生産を

避ける。山土場等に材を置く時間を短くする。殺虫剤を散布する等が考えられます。(法眼)

### 【新たなスタッフ】

2名が配属されました。よろしくお祈りします。

- ◎主査研究員 西原 康人
  - ・中辺路試験地
  - ・担当：種子・苗木生産
- ◎主査研究員 山下 桃子
  - ・担当：主に育種



### ◆木材利用部

- 山裾 伸浩 : 部長
- 坂本 淳 : 庶務担当 林業普及指導員
- 一岡 直道 : 木材強度・木質バイオマス
- 栗田 香名子 : 木材加工・保存・乾燥

### 【トピックス】

当部では、新規課題である紀州材の割れと強度性能に関する調査の他、ヒノキの梁・桁等、横架材利用に向けた性能評価や、簡易型強度測定器を用いた原木段階での強度性能評価に関する研究に取り組んでいます。



また、令和3～5年度に実施したスギ、ヒノキ大径材から得られる板材(ラミナ)の活用に関する研究成果を発信し、大径化が進む紀州材の活用促進を図っていきます。(山裾)

### ◆特用林産部

- 坂口 和昭 : 部長
- 田中 作治 : 花木の栽培管理、紀州備長炭
- 是澤 哲生 : 山菜、きのこ、木の実

### 【トピックス】①

当試験場の一角に、平成19年3月に植栽したマタタビが育っており、今春、初めて花が咲きました。「ネコにマタタビ」で知られる落葉つる性の木本植物です。虫えい果(虫こぶ)は木天蓼(もくてんりょう)という生薬で、健胃、滋養強壮、疲労回復に使われてきました。



また、雌雄異株(雌と雄の木がある)の植物で、雌の木の花に雄の木の花粉が付くことで結実します。花は、虫媒花(虫に花粉を

運んでもらう)で、ハチなどの昆虫が花に集まってきます。ネコがマタタビを好むのは、蚊が忌避する物質が含まれており、ネコはその物質を身体に擦り付けていると、最近新たな学説が出されました。(是澤)

### 【トピックス】②

「真妻わさび発祥の地」の印南町川又地区で、湧水(年間通じ約13℃一定)が減少する中で、ワサビ栽培の常識を覆す、河川水を利用した栽培実証試験を「平井わさび園」の協力を得て実施中です。河川水は、冬は5℃、夏は25℃と変動しますが、酸素を多く取り込む「畳石式ワサビ田」に改良し、夏は流量を増やし、高水温障害を緩和させることが試験のポイントです。河川から引水できる水田等が活用できるため、栽培面積の拡大と新規栽培者の参入が期待できます。昨年8月に定植し、今年8月に収穫予定です。(坂口)



### ～ 中辺路試験地だより ～

当試験地においても、花粉症対策品種の育成に取り組んでおり、既存の少花粉スギ採種園0.62haに加え、令和4年度にスギ特定母樹\*閉鎖型採種園2棟を設置、令和5年度にヒノキ特定母樹ミニチュア採種園0.39ha(600本植栽)を造成しました。



※特定母樹：成長の良い花粉症対策品種

ヒノキ特定母樹ミニチュア採種園については、令和6～7年度に追加造成の計画で、令和5年度植栽からの累計で1,800本の植栽予定です。今後国民的課題となっている花粉症対策の一助となるよう取り組んでいきたいと考えています。(新免)



\*\*\*\*\*

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬 1504-1

TEL : 0739-47-2468 FAX : 0739-47-4116

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/006/>

\*\*\*\*\*

※「やまびこ通信」は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。